

かわむら **こども** クリニックNEWS

Volume 25 No 2

283号

平成29年 2月 6日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

ライブ中継

院長

1月19日はお休みをいただき、ありがとうございました。Facebookの情報で知っているかもしれませんが、インターネットライブ中継のために東京に行ってきました。ライブ中継という言葉だけで、ちょっと格好いいでしょう。お詫びの印という訳ではありませんが、いつものように記事にしてみます。

配信は「予防接種アドバイザー Webセミナー」で、小児科スタッフを対象に、基本的知識習得と実践に役立つ情報を提供する目的で、某ワクチンメーカーによって企画されました。光栄にも企画委員長に指名され、昨年11月から打ち合わせを行ってきました。Web配信の多くは医師を対象とし単発で行われています。このセミナーは小児科スタッフを対象として、シリーズ配信することが特徴です。さらに視聴を重ねることにより、終了証などのインセンティブ(ご褒美のようなもの)を得ることができるよう考えています。

少し話が脇道に逸れますが、スタジオ収録は初めてではありません。20年ほど前、宮城県教育委員会の家庭教育充実事業「すこやかさん こんにちは」を担当しました。この事業には電話相談、巡回相談・子育てセミナー、パンフレット制作などがありました。院長はテレビ放映制作委員長を務め、平成7年には10回のうち、「予防接種が変わりました」、「ぶつぶつが出る病気」を担当しました。さてスタジオ収録に話を戻しましょう。一般的には番組を収録し、ビデオ編集後に放送します。ところが県の事業では予算削減のためビデオ編集ができず、カメラリハーサル(カメラリハーサル)の後、いきなり本番として収録するのです。ある意味生放送と同じですから、アナウンサーやカメラを見たり、台本を確認したり、さらには残り時間表示や“まぎが入ったり”するのでADにも注意を向けなければなりません。目には見えないプレッシャーと緊張で、終わった後は汗びっしょりでした。記事を書いている

うちに、当時の懐かしい記憶が蘇ってきます。アナウンサーは軽妙な語り口が一番かもしれませんが、最も重要なのはタイムキーパー役です。素人が時間を気にせず喋っていても、気がつけばアナウンサーの「ありがとうございました」の言葉とともにぴったりの時間に終了するので。

思い出に浸ってしまい脇道が長くなってしまいましたが、本筋に戻しましょう。配信についてはチラシをみてください。院長は企画委員長という立場で司会を担当し、講師によるレクチャーがありました。今回は新年度からはじまるシリーズ配信のプロローグというか、むしろ番宣(番組宣伝)のようなものです。当然のことながら、本格配信に向けて期待を持たせることが一番の目的でした。それでは中継スタジオってどんなところだったのでしょうか。場所は東京日本橋にある“ジキスタ”で、10畳ほどの部屋に院長と講師が並んで座り、前にはテレビカメラ、モニター、そしてタイマー。さらに机の上にもモニターが設置されています。モニターには台本とともに、スライドが映ります。正面の大きなガラス窓の奥には、進行と機器を管理する制御室があります。



当日は11時にスタジオに集合し、12:30~13:00と13:20~13:50の2回配信しました。数多く講演をこなしていますが、講演では台本ではなくスライドに合わせて、その時々でアドリブで話をします。多少の間違いはその場で訂正し、一字一句正確である必要はありません。まして聴衆の反応も見えないので、緊張することはほとんどありません。ところが目の前に聴衆はいないのですが、講演とは別世界のプレッシャーです。企画委員長での司会の立場ですから、間違えるわけにはいきません。事前に台本を全部覚える時間もなければ、年を重ねた脳力では不可能なことです。モニターの台本を見ながら間違いに注意し、カメラにも視線を向けるというのは至難の技でした。レクチャー終了後の質疑応答をこなし、視聴者へのお礼とシリーズ配信紹介を兼ねた挨拶をして、何とか役割を果たすことができました。ワイシャツが濡れるぐらいの多量の汗が緊張を、さらには数日後の背中の筋肉痛が全てを物語っていました。

さて評価はどうだったのでしょうか。講演も同じですが、ダメでしたという人はいないのです。当然のことながら、評価より重要なことがあります。それは、このような活動が予防接種の接種率を高め、安心かつ安全な接種に役立つことを願っています。



2月のお知らせ

・東北大学医学部学生実習

17日(金)

ご迷惑をおかけするかもしれませんが、よろしく願います。

栄養育児相談

1、15日(水) 13:30~

栄養士担当 参加無料



『がんばろう! 熊本 がんばろう! 日本』
“みんなでやれば、大きな力に”

読者の広場

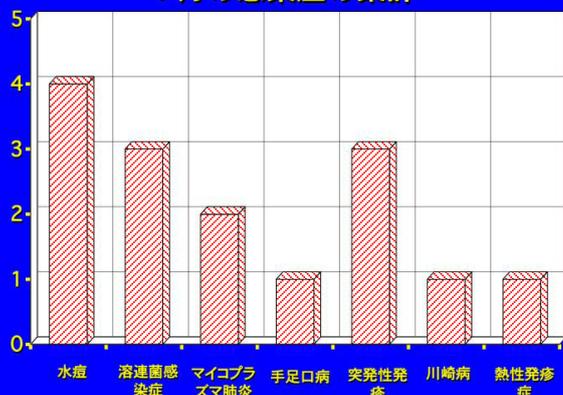
先月は5通のメールをいただきました。医療相談やプライバシーに関わるものが多かったのですが、まずは泉区の匿名さんからの新年の挨拶メールです。「川村先生、去年は○の事では本当にたくさんたくさん助けて頂きましてありがとうございました。○は毎日元気で笑顔で生活しています。川村先生がいつでも優しく支えて下さったのが何よりの力になり、今○が元気で笑顔で生活できています。本当にありがとうございます。○も川村先生に会いに行きたい」と言いながら…なかなか行けないようです。でも川村先生の優しさについても感動しています。川村先生、今年は◎が成人式をむかえます。みんな2ヶ月の時から川村先生に診察して頂いて大きくなりました。川村先生にはありがとうございます。を何度言っても足りないです。私は3人の子供を産んで川村先生に3人共みて頂けて本当に良かったです。ありがとうございます。よく3人のそれぞれのママ友と小児科の先生の話になった時、今までずっと川村先生に主治医いてもらえて幸せだなと実感してきました。スタッフの皆さまにもいつも優しく声かけて頂いて本当にありがとうございます。川村先生今年もよろしくお願ひ致します。スタッフの皆さま今年もよろしくお願ひ致します。」。新年早々年賀状の代わりにとても嬉しいメールです。嬉しさでいっぱいでしたが、次のように返信しました。「メールありがとう。○ちゃんの件はもう大丈夫そうですね。ここまでくれば、もう心配はないかもしれません。家族含めたみんなの力が、いい結果を生んだのですよ。一番はお母さんの力ですが…。先生とはいつでも会えるので、慌てなくても大丈夫!!お母さんの思い、スタッフにも伝えておきますね。いつも○ちゃんばかり心配していると思われるので、◎ちゃんと○くんによろしく伝えておいてください。ありがとうございました。」。昨年の2月号にも同じお母さんからのメールが掲載してあるのに気がきました。この一年ですっかり大丈夫になったようです。新しい年とともに、おめでとうですね (^o^)/



続いては現在流行中のインフルエンザの大人の出勤についての相談です。これもプライバシーに関わることなので匿名にしました。「昨日、おとといとお世話になりました。加○○○の母です。おかげさまで、○○もわたしも熱が下がり、だいぶよくなりました。(せきはですが…)インフルエンザになった時の、職場へのお勤について相談です。上司に確認したところ、治ったと思ったら、病院に行き、先生に確認してから出勤しなさい、となっているようでした。「治ったと思ったら」?(熱が下がったらってこと?)(咳がでなくなったら?)「先生に確認」?先生なら、どう解釈しますか?そして、もし、4日以上休むときは、診断書が必要だそうです。」さて皆さんはどう考えます。まずは返事を紹介しましょう。「メールありがとう。少しずつ良くなっていることは何よりです。さて出勤の基準ですが、原則基準はありません。児童生徒では以前は熱が下がって2日という基準のみでしたが、現在は発熱後5日という縛りが加わっています。大人に関しては、解熱後2日でもいいと思います。「治ったと思ったら」の基準では曖昧すぎます。また子どもでも咳や鼻水は関係がありません。診断書の費用を考えれば、熱が下がって2日としていいでしょう。意思の確認はアリバイ的なもので、責任は医者にとらせるというものです。土日熱がなければ、月曜日受診して出勤でいいでしょう。」。ということで、読者の皆さんにも参考になれば幸いです。

インフルエンザの話題が出たので、日頃思っていることを書きましょう。まずはインフルエンザの検査です。検査は一刻一秒を争って行うものではありません。検査の感度が高くなったとはいえ、早ければ早い分だけ陽性率が下がります。38℃を越えてから6時間以降を勧めます。あまりにも検査に頼りすぎると、とてもおかしいことが起こってしまいます。先日、5人がインフルエンザ、5人がカゼで計10人が欠席と伝えられました。小児科の専門医はインフルエンザにという病名にあまり重きを置いていません。重要なことは集団カゼということです。インフルエンザが流行している時期に、偶然同じ日に別のカゼで多くの子どもが休む確率は極めて低いのです。ということは10人全員がインフルエンザに決まっているのです。早い時期に検査をすることや感度の問題で偽陰性が出てしまうのです。クラスで5人インフルエンザで欠席なら、6人目は診察しなくても90%の確率でインフルエンザなのです。かかりつけの患者さんは理解があるので、臨床診断(周囲の流行+症状)で納得してくれます。当院では、インフルエンザと診断した患者さんの半分は検査をしていません。この問題には保育園、幼稚園、さらには学校等の考え方も関係しています。よく「検査してもらってきなさい」と言われますが、本来は「診断してもらって」が正しいのです。検査するかしないかは、医師の裁量権で、医師が決めるものです。先ほどの学級閉鎖と同じですが、家族に一人インフルエンザがいて数日のうちに家族が発熱すれば、インフルエンザの確率は検査と同じです。3人目になれば、検査しなくてもほぼ100%になります。やぶな医者ほど検査をしたがるのかもしれませんが、もう一つ別な理由があるのではと疑ってしまいます。インフルエンザ検査には判断料合わせて2910円(診療報酬)かかり、検査をすれば費用が高くなります。小児科医は費用だけではなく、子どもの苦痛について考えます。やぶな医者は、診療報酬のために子どもに痛い思いをさせているのかもしれませんが。子どもに苦痛を与えないことは、当然ながら親、社会、そして小児科医の大きな役割なのです。保育園などの集団のため、そして親の心配解消のために、子どもを痛い目に合わせないようにしたいものです。(「インフルエンザ雑感2016」2016年2月も参考に)

1月の感染症の集計



グラフでは特別な病気は流行していないように見えます。感染性胃腸炎も減少しています。先月のインフルエンザの患者数は108人でした。インフルエンザ流行状況(全国・仙台)に関しては、Facebookで毎週提供していますので、ご覧下さい。

Mail News, Facebook の紹介

Mail News は、570人を越えるお母さんが登録。下のQRコードから登録できます。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。



MailNews

Facebook

最新情報はFBを見てください。

Mail Newsが届かない場合は kodomo-clinic.or.jp をドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。

編集後記

インフルエンザ警報とともに、テレビに出ました。読者の広場に書いたことも伝えたいのですが、なかなかそうはいきません。検査を1回すれば2,000円の収入になります。それを目的にしている医師はいないと思いますが…。熱が出て1時間、陰性とわかっている、インフルエンザなのに家族全員検査、さらには検査結果を見せないことも。これって、と思われても?



K's clinic

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』
『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。!!